

1872年、田島弥平は日本初の公的な蚕種の会社である島村養蚕農家の協同組合、島村勸業会社を設立した。彼らの事業は、1859年に対外貿易のため開港された横浜の港町で、高品質の蚕種の格付けと販売を行うことだった。ヨーロッパの絹貿易はカイコの疫病に苦しんでいたため、1800年代後半には日本の生糸に大きな需要があった。1879年、会社は日本の蚕種を直接国際市場で販売してみることにした。2名の社員と一緒に弥平をイタリアに派遣した。これは群馬県出身者がヨーロッパへ旅したとされる最初の記録のうちの一つである。彼らは太平洋と大西洋を横切って東へと旅し、帰路はインド洋を通過してさらに東へ行き、世界を一周した。弥平はミラノに拠点を開設し、そこで約3万枚の蚕種を売ることができた。それに続く4回の海外派遣の間、会社は外国の文化と新しいアイデアを持ち帰り続けた。田島弥平の若い親戚である田島啓太郎（生没不明）は、3回目と4回目の任務を受け、イタリアから7個の顕微鏡を持ち帰り、同社は蚕種の病気の西洋式検査方法を採用することができるようになった。この異文化交流の結果、1897年に日本基督教団島村教会と呼ばれるこの地域における初のキリスト教の教会が島村に建設された。